

# 委 員 会 報 告

- 総務常任委員会
- 文教厚生常任委員会
- 建設経済常任委員会

各常任委員会では、12月定例会で付託になった議案・陳情について審査を行いました。

## 総務常任委員会

(海野隆平委員長)

### 所管事務調査

#### ○秋田県雄勝郡羽後町

(調査事項)

#### 定住支援について

羽後町は昭和30年に1町6ヶ村が合併。少子高齢化等により現在1万6400人となり、人口減対策として平成18年3月に定住促進条例を制定し、「移住」「定住」「支援」と3つの施策を展開、ユニークな取り組みとして、オール電化の定住体験住宅を建築しており、併せて世話係としてのサポート団体も設立されていた。

#### ○秋田県横手市

(調査事項)

#### コミュニティFM開局までの取り組みについて

横手市は平成26年現在人口9万6244人と秋田県で第2の人口規模である。開局までの経緯は、横手商工会



横手市にて研修

議所を中心に、平成20年9月にFM検討特別チームを設置、76社から2070万円の出資を得て、平成23年4月より横手かまくらFMが開局されている。市の行政情報1日3回約10分間の放送で、緊急放送については、「緊急放送に関する協定」を結び、ラジオ局や市による割込み放送ができるようになっていた。

## 第24回全国消防操法大会

大隅南分団は、小型ポンプ車の部で優れた操法技術を披露し、タイム41・34秒、総合得点83点となり全国24消防団中12位の成績でした。

1位は岡山市消防団であった。

## ☆宮崎県都市との定住自立圏の形成に関する変更協定の締結

都城市・三股町・志布志市・曾於市の4つのまちが連携し、安心して暮らせる圏域に必要な都市機能、生活機能を確保することを目的に平成21年10月に協定書を締結しており、今回の変更協定の内容は、「防災及び消防」「移住の促進」「地域公共交通」を追加するものである。

環境分野の水資源の問題、生活対策としてゴミ処理の問題が見落とされており、協定書の中に盛り込まれ

るよう、今後協議を進めてほしいとの意見があった。

## ☆平成26年度曾於市一般会計予算の補正(所管分)

ふるさと寄附金の補正の内容は。

寄附金は非常に好評であり、6月と9月に補正したが足らず、今回1億円を追加補正した。

総務管理事務費の補正内容は。

税務署からの自己点検調査があり本来徴収しなければならぬ税金を認識不足のため10課で83件の870万7632円の源泉所得税の漏れがあった。それに伴い、徴収漏れによる不納付加算税39万5500円と延滞税34万3200円を計上している。対象業者は4業者である。

総務管理費(広報費)59万4000円の内訳は。

来年7月で合併10周年を迎えるため、記念誌製作を委託する。本年度は資料の収集・構成を行い、27年度で記念誌を印刷する計画である。

定住促進対策事業の26年度の実績と、675万円の増額補正の内訳は。

今年の4月から10月までの実績は76件の取得に対し、定住取得祝い金585万円、商品券585万円を交付しており11月から3月までの申請を52件と見込み予算を計上している。

これまでの実績はいくらか。

平成24年度は106件で1530万円、平成25年度は91件で1420万円の実績である。

# 文教厚生常任委員会

(今鶴治信委員長)

## 所管事務調査

### ○恒吉小学校

昭和58年に結成された緑の少年団は、門松つくり、校区祭での募金活動、シイタケの駒打ち体験など活発な活動が行われている。

### ○菅牟田小学校

児童数7人、PTA戸数4戸の同校は、小規模校ゆえ多人数を前にした発表機会の不足に対して、地域行事の場で機会を創出している。ただき補っている。

### ○末吉中学校

心に届くあいさつ、身なりのよさは同校の誇りであり、その評価を聞きつけて都城市や鹿屋市からの入学生も見られるほどであります。また中学校統合後も新入生が円滑に中学校生活に溶け込めるよう生

徒会等により中学校生活、部活動等を紹介するDVDを制作し各小学校への学校紹介に利用していることは素晴らしい取り組みであった。

### ○高岡小学校

全国学力・学習状況調査において県の平均を上回る定着度を達成している。校庭のイチヨウの木に実る銀杏は、先生、児童全員で調製から袋詰め、販売に取り組み、児童会の活動費に充てている。

### ○光神小学校

学力の向上を課題としてとらえ、学校での授業を基本としつつ、家庭との連携による「早寝・早起き・朝ごはん」運動など生活習慣の確立を通じた学力向上に取り組んでいる。

### ○財部南小学校

同校は愛鳥モデル校として、校内に設置した巣箱の観察、校外の野鳥観察等の活動が認められ、平成25年日本鳥類連盟「奨励賞」をはじめ、過去にも数々の賞を受賞している。



野鳥観察用の巣箱

## まとめ

新教育長のもと、学力向上対策、学校経営のあり方等に関する教育委員会の方針や独自性については、早い時期での表明を求める意見があった。また、児童数確保や学力向上のための取り組みについては、市内で成果をあげている例を参考にするなど各学校の横の連携も重要である。

☆平成26年度曾於市一般会計予算の補正(所管分)

問 放課後児童健全育成事業の増額の内容は。

答 末吉中央児童クラブは小学校3年生までを受け入れているが、児童福祉法の改正により来年度から6年生までが対象となり教室が不足することが予想されるため、曾於北部水利事業所において不要となるプレハブ建物の購入及び設置工事に要する費用の追加である。



児童クラブに使われるプレハブ

問 中学校スクールバス運行事業委託料として、平成27年度からの3年間にわたり、新たに中谷コースを含む1億5158万円を限度とする債務負担行為が設定されているのは。

答 中谷地区の生徒については、昭和45年の財部中学校と中谷中学校の統合以降、自転車通学または保護者による送迎により通学している。

答 平成24年度の統合を機に運行が開始されたスクールバスの利用に係る要望に応えられなかったが、諸事情を考慮して平成27年度から新たに中谷コースを新設する予定である。

☆平成26年度介護保険特別会計予算の補正

問 高額医療合算介護サービス費の1360万円の増額は。

答 世帯単位で医療費と介護費の1年間の自己負担が著しく高額になった場合に負担を軽減するものであり、実績見込みによるものである。



# 建設経済常任委員会

(八木秋博委員長)

☆都城市が区域をこえて市道の路線廃止と新たな認定の承諾について

問 その内容と必要性は。

答 今回、都城市の道路台帳の整理にあたり引き続き都城市が維持管理するために、旧財部町・末吉町において承諾した大塚172号線、弊次・踊橋線、狐塚中通線、有里・割田橋線、緩毛原南線等の8路線の一部をそれぞれ廃止する。

新たに蓑原、緩毛原、三枝、高岡口の4路線について再認定することを承諾するためのものである。逆に曾於市が区域をこえて市道認定している路線は9路線あり、建設省通達により曾於市においては現在改め

て路線の認定等手続きを行う必要はない。

☆平成26年度曾於市一般会計予算の補正(所管分)

問 市営住宅の空き家、空室の現状はどうなっているのか。

答 市営住宅については11月30日現在管理戸数1023戸、うち入居戸数881戸(入居率86・1%)、空室1



有里・割田橋線

42戸、うち一般空室63戸、入居不可(政策空き家)79戸である。特に空き家が多いのは、川内団地17戸、正ヶ峯団地12戸、天神丘団地9戸、中須団地7戸である。

意見 市営住宅が効率よく活用されるよう広報紙や市ホームページ等で空き家、空室状況を幅広く周知していくよう努めるべきである。

問 曾於のうまいもんPR事業について、ふるさと納税のお礼とし

て加工品が大変な人気となっているが、その品質保持について今後の対応をどう考えているか。

答 確かな品質を保持できるような事業所であることはもちろん、安定的に品物を供給できる事業所であることも、選定基準の一つである。高度な情報化社会の中で悪評が一度たつと、その信頼回復にはかなりの困難を伴うことは十分に予想できる。事業所選定も含めて品質保持に関する点については、今後とも慎重に取り組んでいきたい。

問 今後、耕種部門についても取り入れていく考えがないか。

答 耕種部門については、取り組める品目がないか検討したい。

問 土壌診断事業の内容実績。その結果対応は。

答 曾於市有機センター敷地内にある土壌診断室において無料で診断しており、近年甘藷畑の診断が増えており平成25度392件、今年度はさらに増加している。

また、その診断処方箋に基づいて施肥改善を行い土づくりや環境保全型農業を進めている。

問 活動火山周辺地域防災営農対策事業補助金の現状と対象者選定はどのように行っているのか。

答 飼料用作物収穫調整用機械導入資金が主で、県補助金65%、組合(60歳未満3名以上で構成)35%で、本年度は6件の採択があった。

同事業での取り組みを希望されている方々は準備が整い次第、順次事業導入のための手続きを進めている。



土壌診断中

# 議会広報等調査特別委員会 研修報告 久岡克典委員長



南山城村議会にて研修

平成26年11月18日から20日にかけて、全国議会広報コンクールで受賞された京都府の南山城村議会、久御山町議会を研修いたしました。

南山城村は京都府唯一の村ではありますが、宇治茶の生産でたいへん有名などころであります。

議会だより作成に当たり、いかに手にとって読んでもらえるか一番の決め手は表紙の写真であり、読者の関心を引き付けることが大切であることを強調されておりました。

毎回100枚を超える写真を選び、その中から選定し、必ずデータ修正、加工を行うなど、完成度の高さに感心したところでもあります。

また久御山町は、1700あまりの事業所がある、税収豊かな地方交付税を受けない健全財政な町であります。

広報紙の特徴として、表紙の「くみやま」の手書き



表紙フォトグランプリ受賞

題字を町内3小学校の1年生から公募し審査の上、採用していました。採用された児童は裏表紙で紹介されます。親も先生も議会だよりに関心を持たれ、読んでもらえるという効果があります。

また、会派研修レポートは必ず掲載し、全国から来町「ようこそ久御山町へ」の見出しで視察研修に来られた市町村議会を紹介するページ等、豊富な内容のあるもので工夫されておりました。

今回の研修を機に、議会だより編集のなかで活かしてまいります。

## 地域に貢献 総務大臣より感謝状



徳峰 一成議員（町議：26年2ヶ月、市議9年4ヶ月）

- 議員として在職35年以上在職し、地方自治の振興発展及び住民福祉の向上に尽くした功績を讃え総務大臣より感謝状が贈られました。